

## 役者絵

本展は、9月11日（火）に島根県民会館で歌舞伎が上演されたことにちなんで松江歴史館収蔵（寄託品含む）の役者絵を展示するものです。

ここでは、後期（9/21～10/17）の展示作品を紹介します。



たいらのあつもり

上の作品では、敵軍の平敦盛の命を助けるよう密命を受けた源義経の家来・熊谷次郎直実が、味方の手前、敵軍の大將をみすみす逃がすわけにはいかず、やむなく自身の息子・小次郎を敦盛の身替りにして討つ「組討」の場面を描いています。下の作品では、身替りの小次郎の首を義経が実検をして敦盛の首に間違いないと断言する「熊谷陣屋」後半の場面を描いています。

### 初代歌川豊国画

3代坂東三津五郎の熊谷次郎と  
2代岩井籙三郎のあつ盛

『平家物語』を基に脚色をした  
いちのだにふぼくんき  
「一谷嫩軍記」に取材した作品です。

本演目は特に三段目の切（通称  
くまがいじんや  
「熊谷陣屋」）が現在も上演される  
演目としてよく知られ、これらの  
2つの作品も「熊谷陣屋」の前後  
のエピソードに取材しています。



初代歌川豊国画 関三十郎の源よしつね、坂東三津五郎の熊谷次郎、瀬川菊之丞のさがみ



### 初代歌川国貞画

3代坂東三津五郎の間屋人足孫七  
7代市川團十郎の立場の太平次

えほんがらぼうがつじ

歌舞伎「絵本合邦衛」に取材した作品です。この演目は、多賀家  
さえだたかくのすけ  
横領をたくらむ左枝大学之助に  
兄を殺された高橋弥十郎が、後に  
がらぼうどうしん  
合法道心となって仇討するまでを  
本筋に、大学之助とそっくりな顔

の立場人足の太平次のさまざまな悪事を絡ませた作品です。下層社会の写実的な描写のなかに非情な殺人が相次ぎ、3組の夫婦が残らず凄惨な返り討ちにあう悲劇に迫力があります。

この画の作者の歌川国貞は、初代豊国の築いた歌川派を引継ぎ、幕末の浮世絵界の中心となりました。それまでの美人画には格調高く妖艶な趣がありましたがこの時期（文化文政期）の国貞の美人画は粹で、庶民感覚にあふれたものでした。



### 初代歌川国芳画

けぞりく えもん  
市川海老蔵の毛剃九右衛門と  
尾上菊五郎の宗七

はかた こじょうらなみまくら

歌舞伎「博多小女郎浪枕」に取材した作品です。この演目は江戸後期に密貿易する一味がさらし者にされた実際の事件を取り入れて舞台化されたものです。

この画には、密貿易商人である

毛剃九右衛門と、毛剃の海賊船に乗り合わせた京の商人・惣七（本画では宗七）が描かれています。毛剃の装束はエキゾチックで、海賊らしさが際立てられています。

この画の作者の歌川国芳は、国貞、広重とともに幕末の歌川派を牽引し、江戸後期の浮世絵界の大きな位置を占めた絵師です。武者絵や、世相を反映させた戯画・風刺画などを得意としました。本画の毛剃の力強い姿からも、国芳が武者絵を得意としたことがうかがえます。

## 松江と歌舞伎



天満宮近くにあった永徳座

### 劇場のにぎわい

かつて松江にはいくつかの芝居小屋・劇場があり、賑わいを見せていました。明治初期には北堀町に朝日座、伊勢宮に千鳥座等があったといひます。明治20年代に県の条例により芝居興行は白潟天満宮周辺に移ります。

売布神社の付近にあった永楽座は、天満宮近くに移転し永徳座と名を変え、明治27年正月にこけら落とし上演として東京歌舞伎が来演しました。市村羽左衛門ら花形役者が来松したといひます。その後も永徳座は、人参方にあった改良座とともに名称を変更しながら、また映画も上映しながら昭和半ばまで興行を続けました。

### 島根県民会館の誕生

昭和43年(1968)9月25日には、松江市公会堂跡に島根県民会館が開館しました。本年は開館50周年の年にあたります。当時、西日本一を誇ったこの施設のこけら落としには13世片岡仁左衛門一行による歌舞伎が華々しく上演されました。ことぶきしきさんぼうそう つばさかすいしげんき かんじんちよう「寿式三番叟」や「壺坂靈験記」「勸進帳」の演目が熱演され訪れた人々を魅了したといひます。

またこけら落とし公演前日には、公演のために島根を訪れていた仁左衛門一行によって、大社町(現出雲市)出身で歌舞伎おくにの始祖といわれる出雲阿国の塔の除幕が行われました。



現在の阿国の塔

### 仁左衛門のみた松江

13世片岡仁左衛門は、手記『らくがき仁左衛門楽我記』(昭和57年、三月書房)の中で松江についてこう語っています。「松江にはいろいろの伝説や古跡もたくさんありますが、私はあの大橋の畔から七色に色が変わるといふ入日を拝んだ時、ほんとうに素晴らしいと思ひました。宍道湖は静かに黄金色に光っていましたが、やがて薄紅になり、そして刻々と夕闇につつまれて行く、あの湖の眺めは忘れることができません。」

# 平成30年度 松江歴史館ミニ展示 後期 役者絵

前期: 8月17日(金)  
~ 9月19日(水)

後期: 9月21日(金)  
~ 10月17日(水)

(休館日: 9月20日(木))

会場: 展示室前展示ホール  
(観覧無料)



松江歴史館

〒690-0887 島根県松江市殿町279番地  
TEL.0852-32-1607 FAX.0852-32-1611  
<http://www.matsu-reki.jp/>

前期展示: 歌川豊国画  
坂東彦三郎の菅丞相  
「菅原伝授手習鑑」に取材